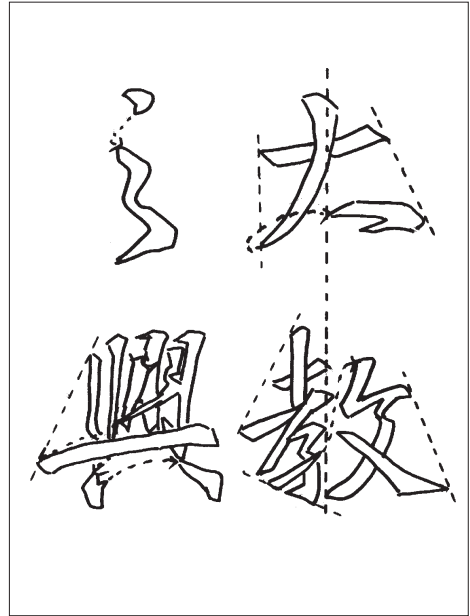


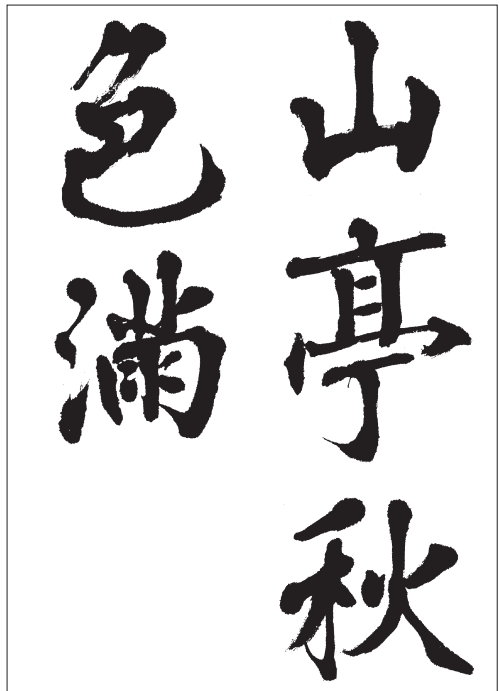
◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料430円



集字聖教序・王羲之

- 1、字句「大教之興」
- 2、形式「半紙タテ使用。右に「大教」、左に「之興」と臨書し、左余白に「〇〇臨」と調和を工夫して書き入れる。
- 3、概観「集字聖教序」は、王羲之の文字を集字した碑であることは前にも書きましたが、集字による不自然さはあまり感じられません。前号では、楷書との違いを述べてきましたが、今回からは用筆について考えていきます。
 まず、入筆角度を詳細に見ると、横画・縦画・斜画・点の入筆角度が多様な表情を見せているのがわかります。
 また、走筆部分の筆の動きは、抑揚の激しい、一字の中での太細の変化の著しいものがあります。
- 4、各字のポイント
 大 二画目の左払いは一画目の横画の中央で交わり、三画目はこの二画目とバランスをとるように、真横に近い形に書いています。収筆では払って次字への意識をもたせています。
 教 二画目の縦画は真っ直ぐに力強く。三画目の横画は左に張り出し、それ故四画目の左払いは短くし、偏は右側に壁をつくるかのようにする。傍の三画目は二画目の中程の位置から入筆する。
 之 字幅が狭く方向を微妙に変化させる。
 興 縦画を有効に配し、横画は前画を受けて入筆し力強く。

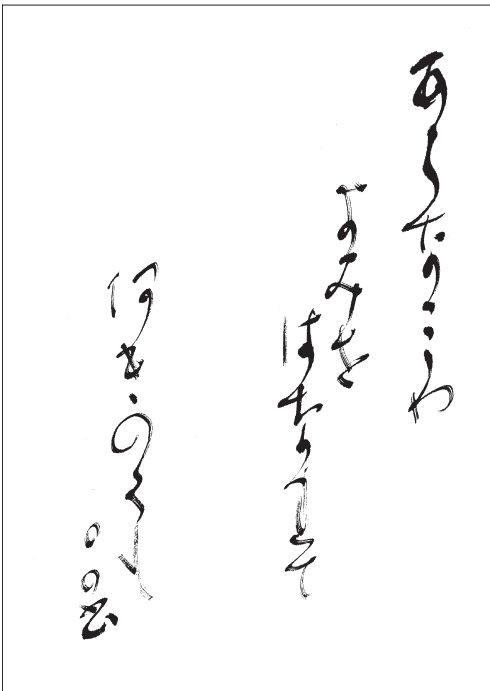
半紙課題(予告) (十月二十二日締切)



平岡華雪先生書 山亭秋色満つ。(唐太宗)

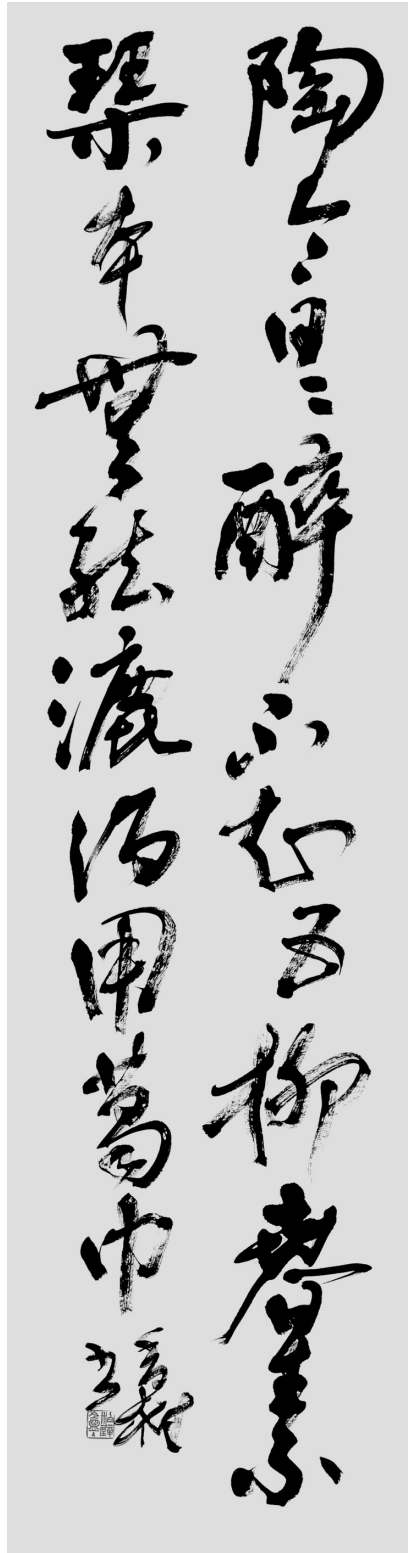
訳…山のおずまやは秋色が満ちている。

平岡華雪先生書 荒浪や波を離れて秋の雲(暁台)



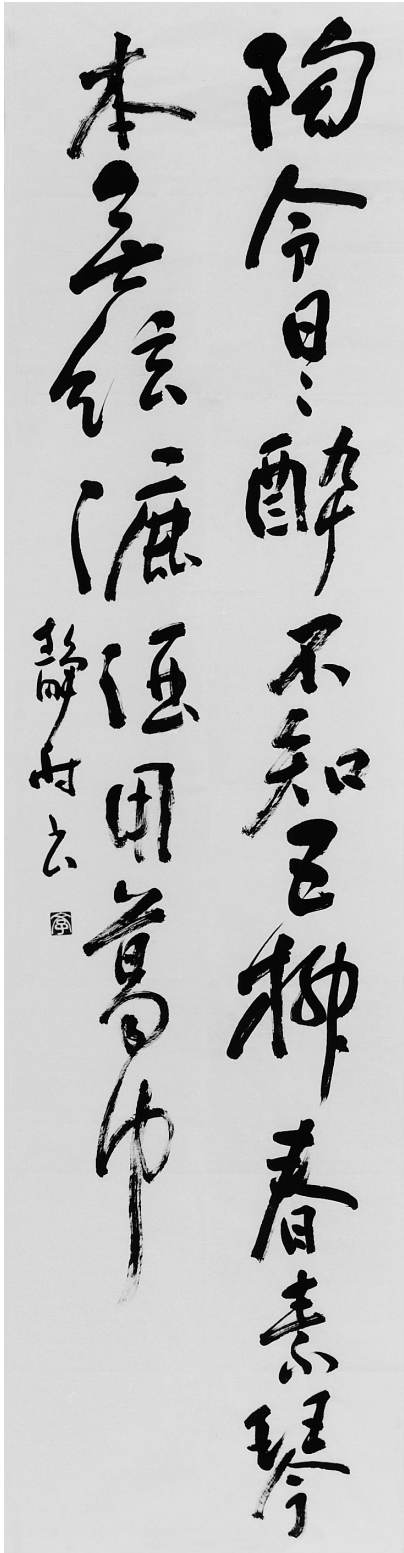
A 高橋香樹会長書

陶令日々醉 不知五柳春 素琴本無絃 漉酒用葛巾 (李白)
陶令は日々に酔いて、五柳の春を知らず。素琴本絃なく、酒を漉すに葛巾を用う。



B 鈴木静村先生書

今回の作では、連綿線は多くはないが、行の流れをと思ひ構成してみました。縦画の方向・点の連続・上の文字のどこに下の文字を繋げるかなど考へてみました。一行目は少しやり過ぎかと思いましたが、敢えて書いてみました。「春」は「春」が隸書にあり、翁方綱も行書で書いています。墨継ぎは「春」と「漉」です。



平板にならないために——五絶20文字は、字粒もやや小さく字間も詰め気味に布置するため、初歩段階では平板に過ぎ、流れのアクセントに欠け易くなることが多い。大切なことの一つは「字幅」——偏と旁、左右の払い、長横画を有つ文字は字幅をとり易い。次に画の方向、傾きの変化の工夫により、「動勢」を醸出させることができる。「陶」偏の縦画をやや内側へ、「日」の第一画も同様。これだけでも「動き」が表われる。

訳：かつて彭沢（ほうたく）の令であった陶淵明は帰郷して毎日濁酒を飲み、春がきて門前の五本の柳が芽吹いたのも知らない。飾りのない粗末な琴には絃もない。濁酒をこすにも、かぶっている葛巾の帽子を使っている。

予告 (十月二十二日締切)

雁將秋色來平野

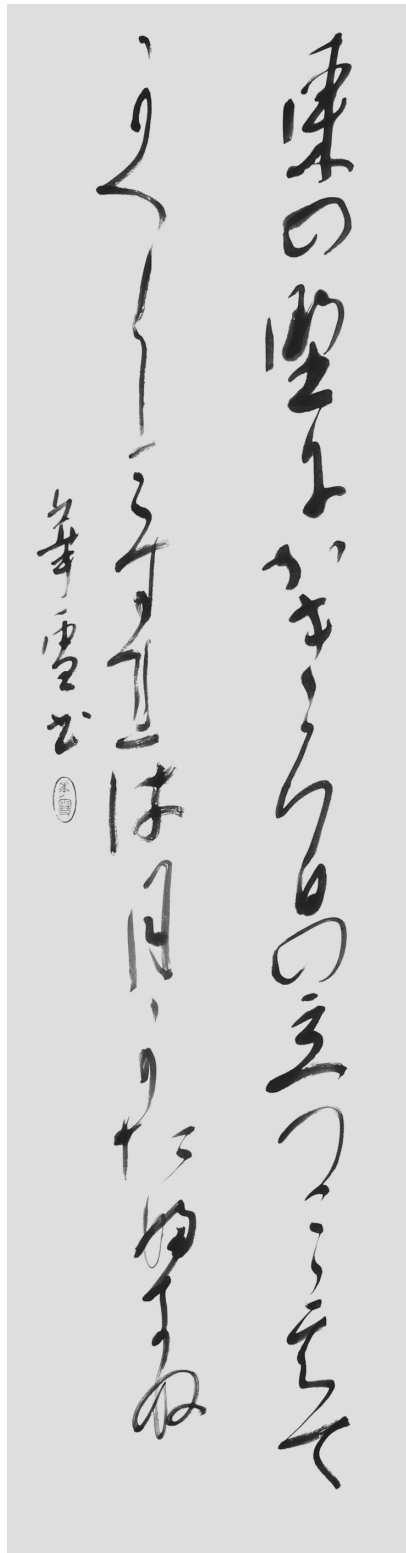
鴉帶寒光過遠林 (梁潜)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

A

平岡華雪先生書

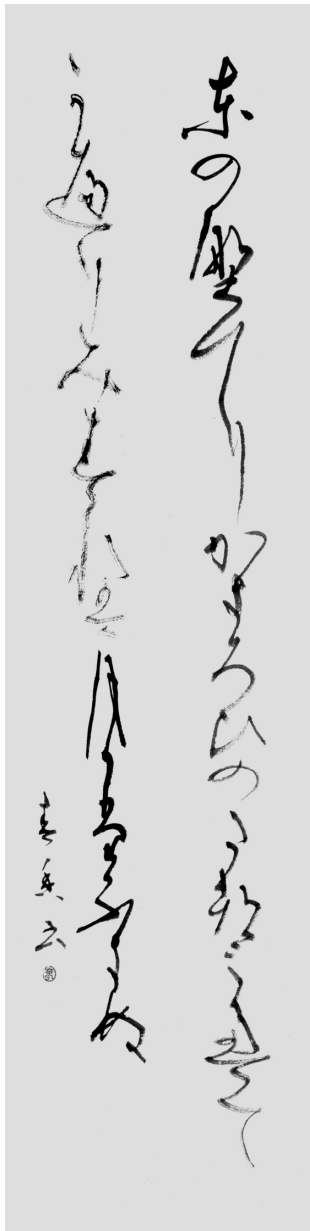
東の野にかぎろひの立つ見えてかへり見すれば月かたぶきぬ
東の野るかきろひの立つ三えてかへり三す連は月かた婦支ぬ
(万葉集 柿本人麻呂)



B

石原春香先生書

東の野耳か支ろひの多都三盈て可廻りみ春れ盤月可堂ふ支ぬ



柿本人麻呂

飛鳥時代の歌人。
名は「人麿」と表記される。
後世山部赤人と共に歌聖と呼ばれ、称えられている。
三十六歌仙の一人。

学び方

歌意：東の野に曙光が見えて後ろを振り返ってみると月は既に西に傾いている
軽皇子が安騎の野で宿をとった時に柿本人麻呂が造った歌
「東の野」を密にした分「耳」で空間をつくる。「春れ盤」でカスレを出し「月可堂ふ支ぬ」は連綿をかるやかにして収める。

予告(十月二十二日締切)

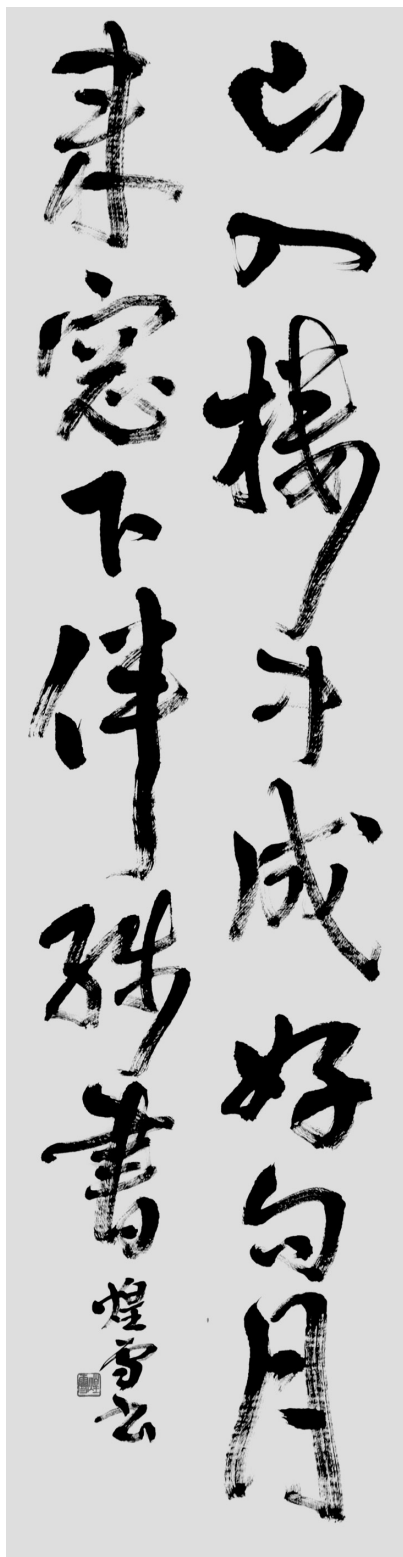
神無月風に紅葉の散る時はそこはかたなくものぞ悲しき(新古今和歌集)

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

条幅部 随意参考

星野 煌雪 先生 書

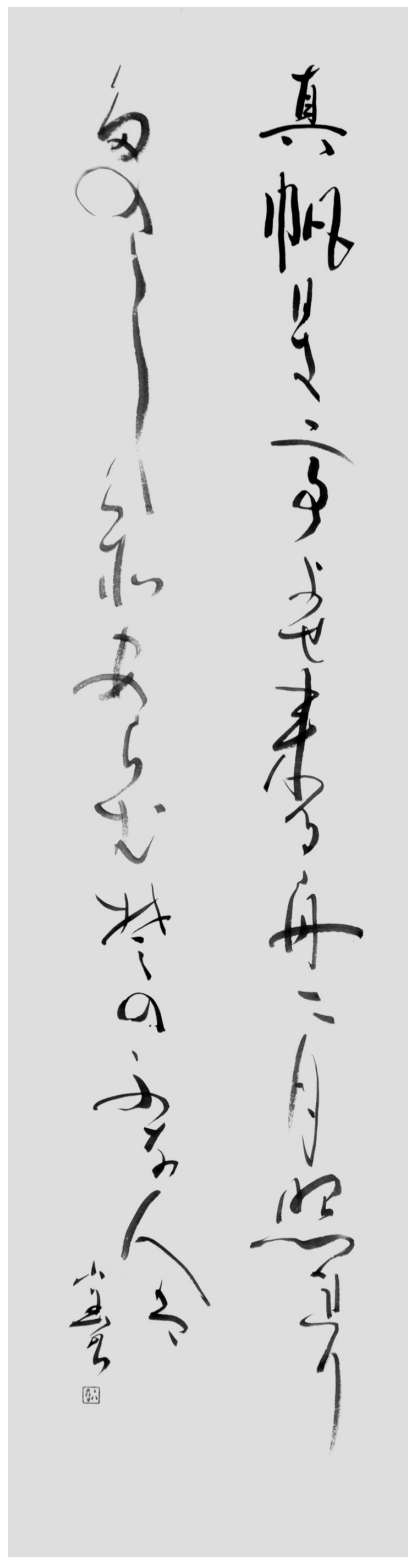
山入楼中成好句 月來窓下伴殘書 (許非木)
 山は楼中に入って好句を成し、月は窓下に來りて残書に伴う。



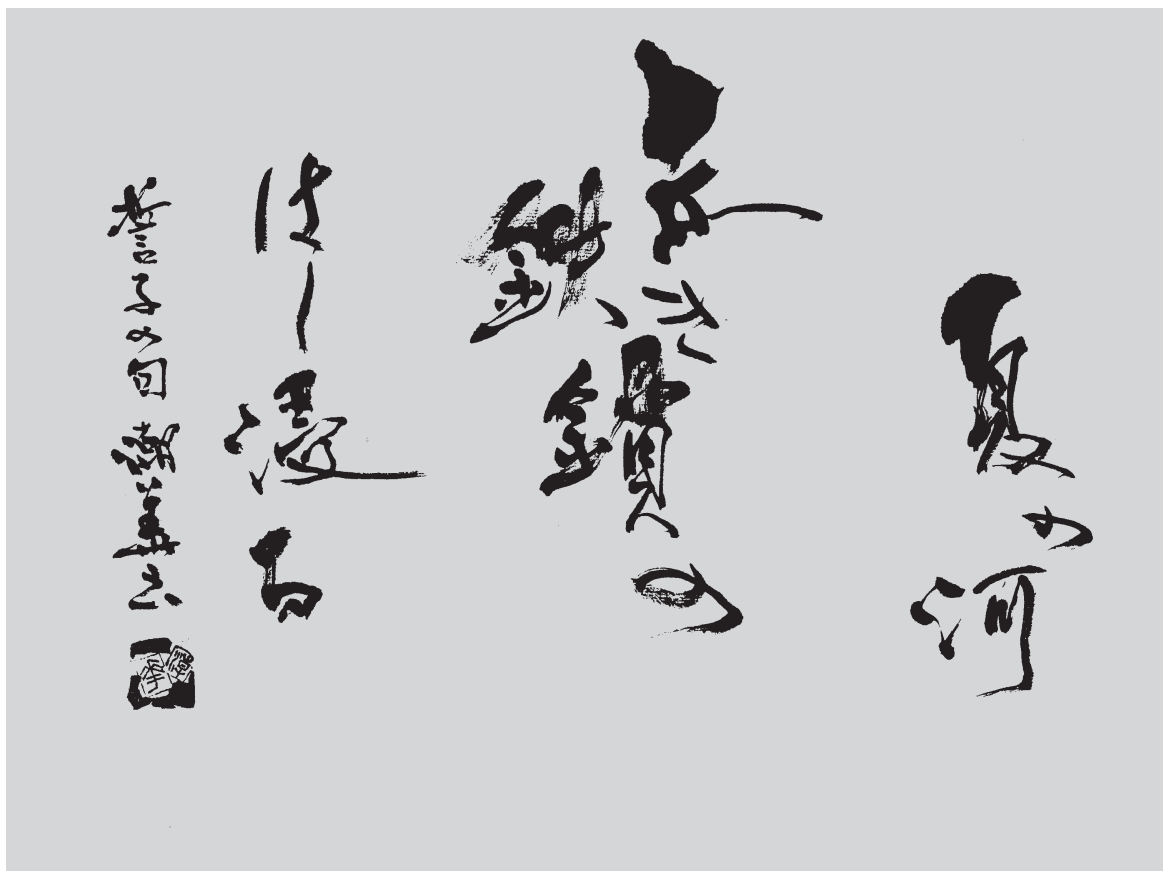
訳：あい対する青山は影を楼中に送って好句の材料となり、人を窺う月は窓に入ってきて昼に見残した本を読む友となる。

高山 小玉 先生 書

真帆ひきてよせ来る舟に月照れり楽しくぞあらむその舟人は (田安宗武)
 真帆日支亭よせ来る舟二月照連り多のし久所あらむ楚のふ奈人盤



- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条随を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条随を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)



水貝潮華先生書

夏の河赤き鉄鎖のはし浸る

山口誓子「夏の河」

毎月作品の審査をしていますと、掲載手本と同じように書かれた作品が大変多いことがとても残念です。今回はこの句を思い切って自運で書いて欲しいと思います。「研究部」への出品と同じように、課題の句から各自が受けるイメージを紙にぶつけて下さい。あくまで、課題手本は参考です。

今回の掲載手本は、文字の傾きを一方向のみでなく、多方向に揺らぎながら、「赤き鉄鎖の」が山場となるよう、中央に大きめに、強いタッチで書いてみました。

山口誓子（一九〇一～一九九四）

俳人。京都市生まれ。小学校時代から作句を「ホトトギス」「京鹿子」に投句。東大俳句会を結成、高浜虚子に師事。「馬酔木」を通して新興俳句運動に参加。「天狼」創刊、主宰。句集「黄旗」「炎畫」「激浪」

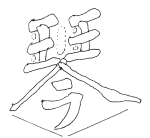
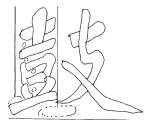
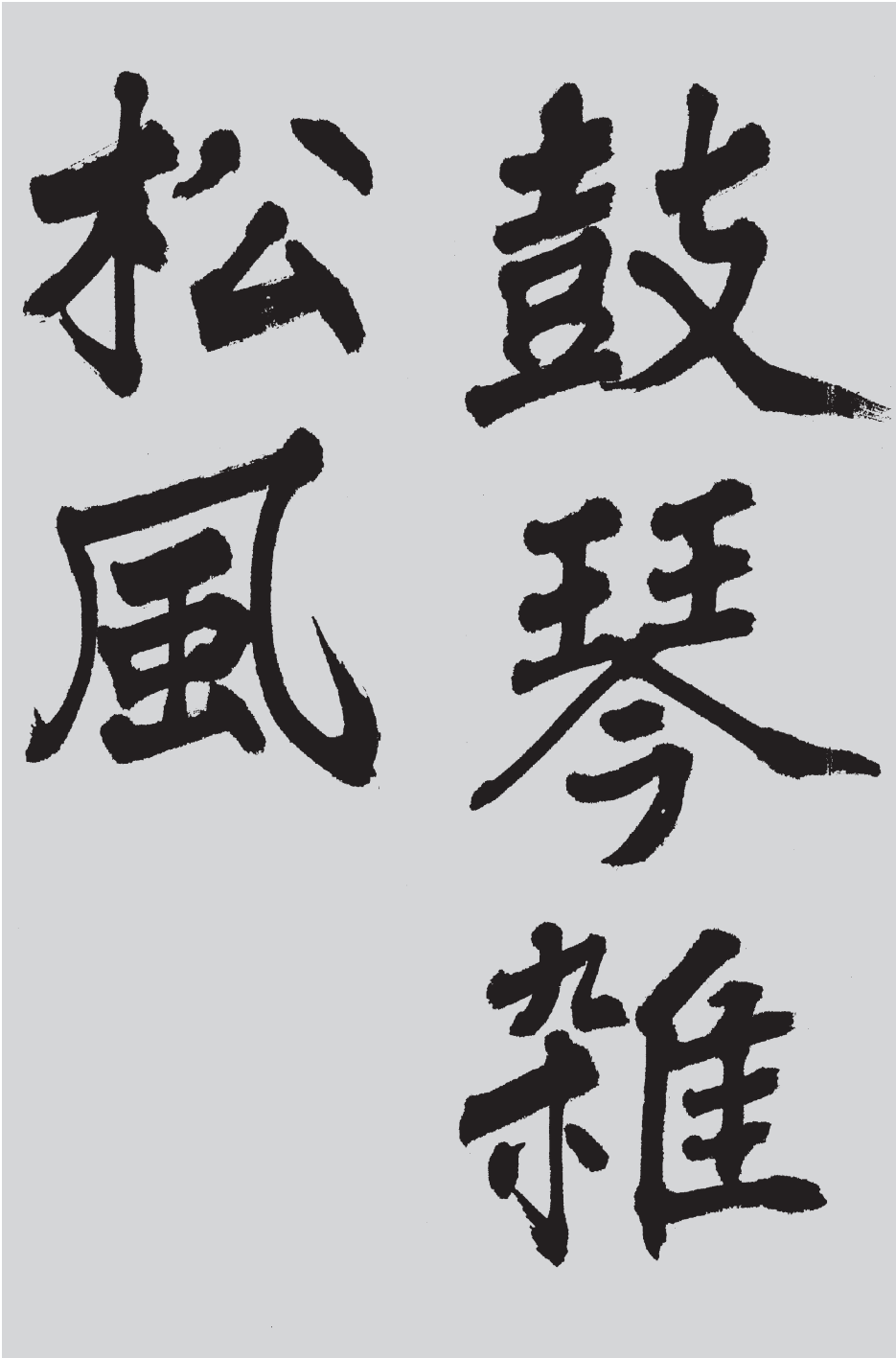
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。

①漢か ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

琴を鼓して松風に雑る。(葉顛)
訳：(山間の石上に坐して書を読み) 松風に和して琴をかなでる。

へいきいき横画の重なり
右行三字に横画の重なり(壹、珙、佳) 画間はほぼ均等の構成をとるが、所々大細・潤濁を導入させて立体感を醸成し、“動き”ある表出へ即連結させたいものである。

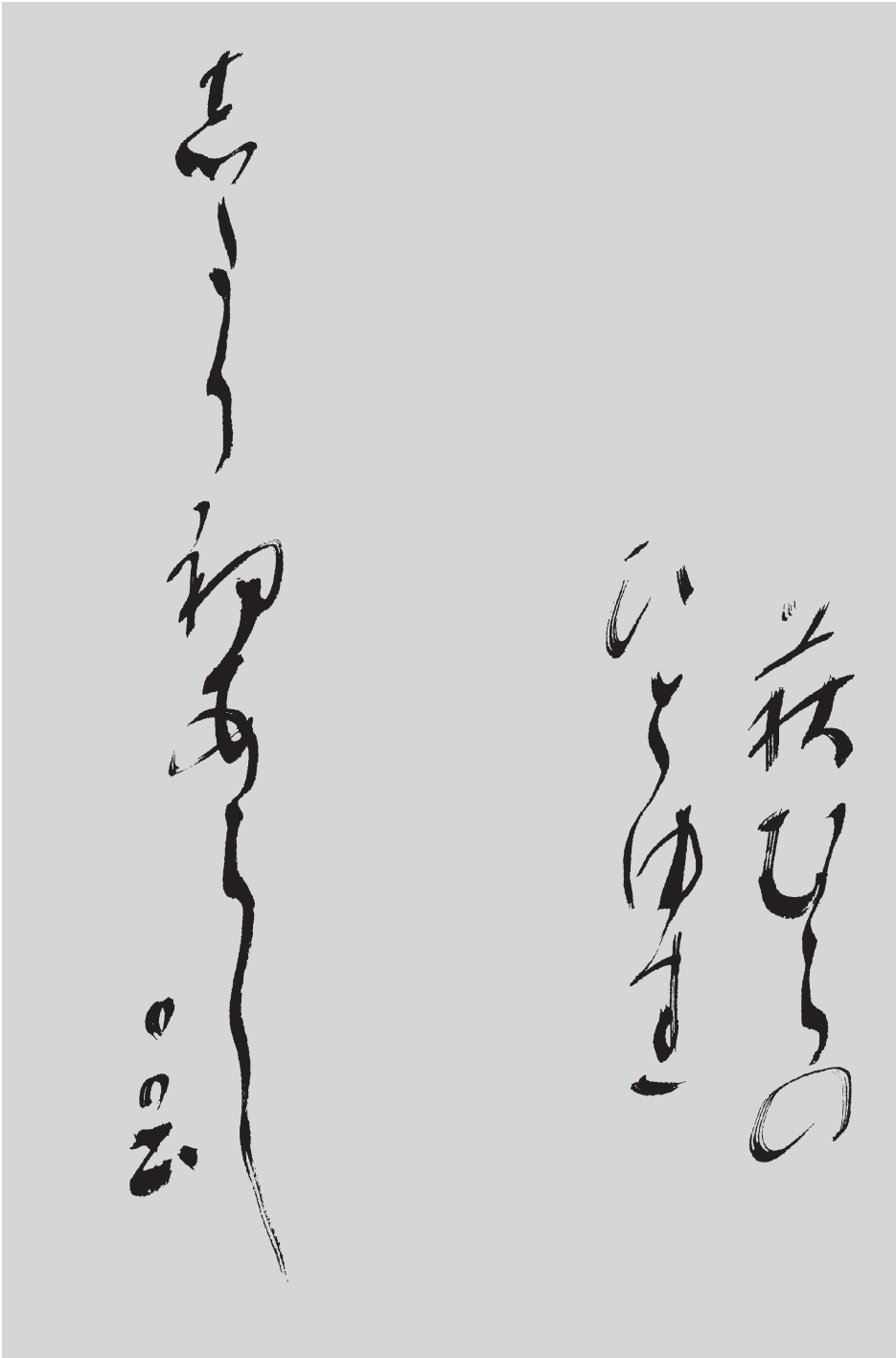


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

- ①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

萩むらのひとゆれしたり初あらし(越央子)
 萩むらのひとゆれ^れ多^たり初あらし



〈基礎・基本について〉

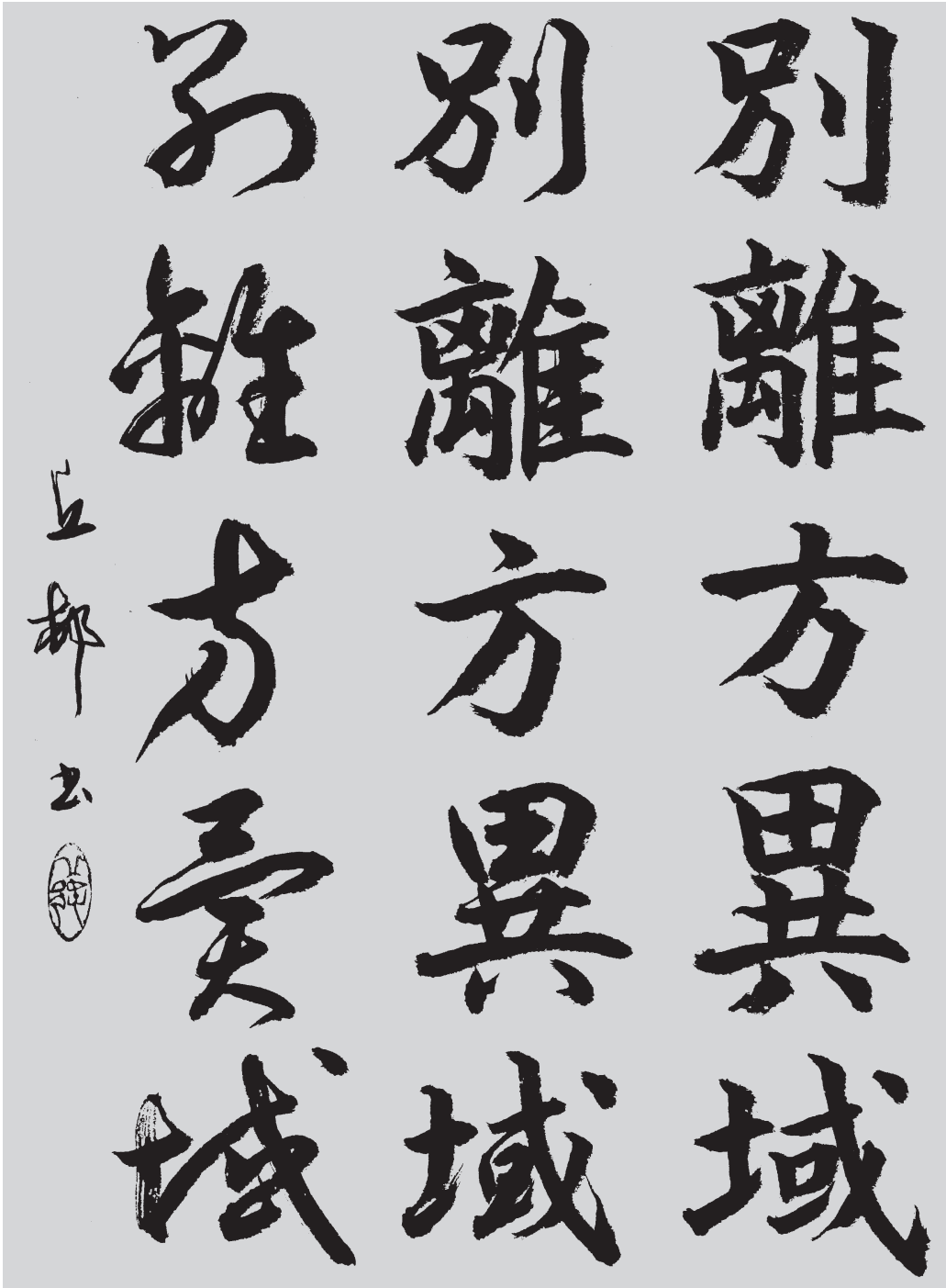
右群二行、左群は一行に落款の構成。墨継ぎは左群の「初」と見る。初段階者に留意したい点は、まず単体による筆意、字形の確かな把握。単体練習で一字を消化し切ってほしい。例えば、「む・ら」：。漢字面でも「萩・初」の草書体。ある程度の自信をもって連綿に移ることが大切。基本練習に徹してほしい。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

戸張丘邨先生書

別離方異域（王維）
べつり
まさ
い
いき
別離方に異域



訳：たがいに別れてしまえば、別々の世界の人となるのだ。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円。

随意部参考

加藤洞雪先生書

硯有詩能秀 山於夢亦清（方秋厓）
硯に詩有り能く秀で、山は夢に於て亦清し。

硯有詩能秀
山於夢亦清
洞雪

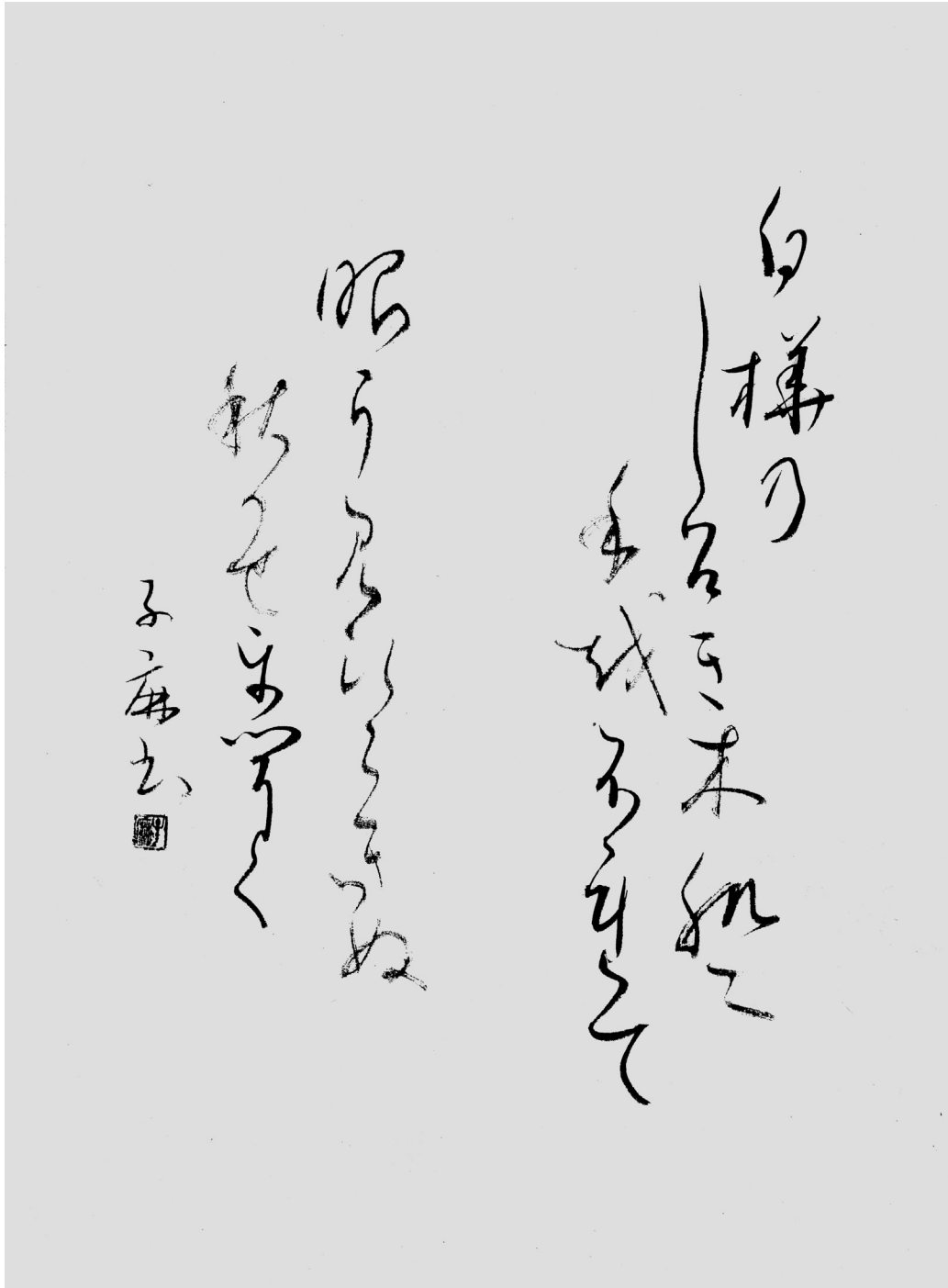
訳：新詩は硯に打ち向えばすぐに好いものができる。青山は遠く訪うに及ばぬ夢さえ借らば心持よく遊ばれる。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

随 意 部 参 考

林
子
麻
先
生
書

白樺しろかばの白しろき木こ肌はだに手てをふれて眼めを見みひらきぬ秋あき風かぜをきく（木下利玄）
白樺しろかば乃のし呂ろき木こ肌はだ二に手て越こ不ふ連れて眼め乎を見みひらきぬ秋あき可かせ乎を聞き久く



1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

稲畑 暉穂 先生書

石原 春香 先生書

課題 2 (初段階以下)

課題 1 (初段階以上)

世に山積する文献史料は政治と
戦争に詳く。地に残る遺跡遺物は
技術と産業を教えるくれる。

いまでも祭礼の喧噪の真ただ中に
ある浅草寺の境内。よくみると、人々
は思い思いの仮装に興じ、互いの衣装を
競いながら大いに楽しんでる。

課題 1 (初段階以上)

いまでも祭礼の喧噪の真ただ中に
ある浅草寺の境内。よくみると、人々
は思い思いの仮装に興じ、互いの衣
装を競いながら大いに楽しんでる。
〔江戸名所図屏風 大江戸劇場の幕が開く〕
内藤正人

◆注意

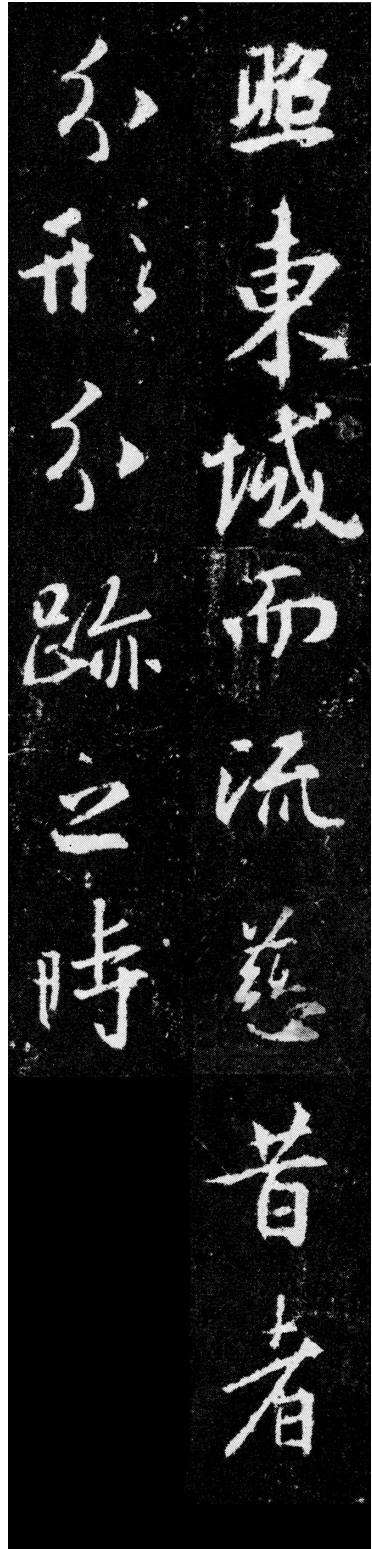
- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円

課題 2 (初段階以下)

世に山積する文献史料は政治と戦争に詳しい。地に残る遺跡遺物は技術と産業を教えてくれる。

〔世界を創った男 チングス・ハン〕

塚屋太一



照東城而流慈 昔者分形分跡之時
 東城を照らして慈^{めぐみ}みを流す。昔者^{むかし}分形分跡の時には、

※随意部参考（半紙・条幅）としてもご利用下さい。抜粹可。
 随意部半紙は無料。随意部条幅は一枚目無料、二枚目から五四〇円。

一字書（九月二十二日締切）

課題

穗

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四三〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に
一字と記入 段級は無記入